アメリカ合衆國及ロシアに於ける 獸醫寄生蟲學 (二)

M. C. Hall

The Tick Eradication Division は全くダニの驅除に全力を捧げてゐるがダニとヒロプラズマ病を六十萬方哩に亙つて驅除しつゝあることを述べるだけで充分である。

The Field Inspection Division は疥癬及瘧疾のコントロールに關係してゐるが、將來大規模の寄生蟲撲滅の仕事は此の分科によつて實行されることと思ふ。

二、Federal Bureau of Entomology. 本局は人及動物の外部寄生蟲の研究機關である。ワシントンに於ては十五人の昆蟲學者と二人の事務員とよりなる團體で、地方に十一の出張所を有してゐる。已に家畜(家禽をもふくむ)を犯すところの昆蟲類、ダニ及ダニ類に就いて多數の價値ある仕事をなしてゐる。

三、Federal Bureau of Biological Survey. 本局は紐育州の Saratoga Lake に毛皮獸の繁殖場を有してゐる。而して寄生蟲を含めて此等毛皮獸の疾病を研究してゐるが、野獸の寄生蟲及疾病と關係があるから他の局との協同作業の下に研究は進められてゐる。

四、Federal Forest Service and National Parks Service

農業省内の Forest Service 及内務省内の National Parks Service の職員は前述の Biological Survey の人達と同じく野獸の疾病及寄生蟲に就いて研究をしてゐるが、之れも他の局との協同作業の下になされてゐる。

五、Federal Bureau of Fisheries. 商務省内の本局は一人の専門家が魚類の疾病を研究してゐるが此の仕事には寄生蟲が含まれてゐる。

六、Agricultural experiment Stations. 農業省からの最近の報告中其の八十九編は State experiment Stations に於てなされた寄生蟲學に關係するものである。此は寄生蟲學に對する興味の高になりつゝあるを證するものである。以下州及島嶼領 (insular possessions) 別に研究された問題を掲げることにする。

Porto Rico. 家畜寄生蟲の一般的調査、羊、山羊、畜牛の肝蛭、豚十二指腸蟲、豚腎蟲、Guam サンペペ、Kentucky. 動物寄生蟲、Wisconsin. 同 West Virginia. 羊及畜牛の胃蟲及肺蟲、Maryland 豚寄生蟲、サンペペの驅除、California. 家禽寄生蟲、馬蛭、Kansas 寄生蟲に對する抵抗、寄生蟲に對する家禽の抵抗、家禽の線蟲及條蟲の生物學的研究、鶏條蟲の發生學的研究、鶏條蟲の媒介としての家蠅、Michigan 食用動物の病原寄生蟲の發育及驅除、North Dakota. 腸内寄生蟲の驅除、羊の腸内寄生蟲、豚の圓蟲、家禽の腸内寄生蟲、虱、ダニ、Wyoming. Moniezia expansa, Thysanosoma actinoides, Sarcocystis tunella. 發育史 Oregon. 羊及山羊の肝蛭及肺蟲、犬の蛙中毒、Texas. 羊及山羊の胃蟲

ノントロール、羊、羊毛を害するキンバイ、山羊の虱、羊の疥癬、North Carolina 羊の胃蟲の治療、Illinois 豚衛生、牛蝨、Louisiana 豚圓蟲のノントロール、Florida 豚腎蟲、マンソン氏眼蝨、マンソン氏眼蝨の發育史、Minnesota 家畜の内寄生蟲、飼養狐の條蟲の感染源、家畜寄生蟲とコレラ Collyricium 屬の吸蟲、馬蝨、New Jersey Ascaridia persicillum 蚊ノノントロール、Oklahoma 家禽條蟲、New York 馬蝨、Arkansas 馬蝨、Indiana 搾乳所に於ける蠅のノントロール、Montana 蚊、Connecticut 蚊。

前述の如く吾が州及島嶼中の二十五は、家畜寄生蟲學の研究に従事してゐることが明である。而して過半數の諸州はかゝる仕事に手をつけないが次の十年間には恐らく凡ての州及準州、島嶼に於て獸醫寄生蟲學者を有するやうになることと思ふ。

巡回事業としての獸醫寄生蟲學に關する諸州の計畫を次に記す。

South Dakota 豚衛生、North Dakota 豚衛生、羊寄生蟲、家禽衛生、Maine 黒頭病のノントロール、家禽衛生、Kentucky 動物寄生蟲、Kansas 豚衛生、家禽寄生蟲のノントロール、Iowa 豚衛生、家禽寄生蟲のノントロール、馬蝨、Illinois 家禽寄生蟲のノントロール、豚寄生蟲のノントロール、畜牛、羊寄生蟲のノントロール、Georgia 豚衛生、家禽寄生蟲のノントロール、動物寄生蟲のノントロール。

此等八州は最も普通に豚及家禽寄生蟲のコントロールを計畫し實行してゐる。各州凡てかくの如き計畫を有すべきでありまた速からずこれに關心を持つことと思ふ。

彙報 アメリカ合衆國及ロシアに於ける獸醫寄生蟲學

ロシアに於ける狀態

ロシアに於ける獸醫寄生蟲學の狀態は最近 Commissariat of Agriculture の寄生蟲學研究所所長 Dr. K. I. Skriabin より論ぜられた。氏の此問題に就ての論文は千九百二十四年正月 International arrangement によつて創設せられたる The Office International des Epizooties の千九百三十年第三卷六號の月報に發表された。而して Zunker によつて Berliner Tierärztliche Wochenschrift の千九百三十年第四十六卷五十二號に評論された。次に掲げるは其の現在狀態及將來への計畫の概要である。

一、組織 Skriabin は現在迄の寄生蟲のノントロ

ールに對する攻究は、分散的な不十分なものであるから、今後は大規模に又熱心に仕事をなすべきことを主張するのである。

ロシアに於ては是が第一著手としてモスコに寄生蟲學研究所が設立された。是は科學的及應用的内寄生蟲學の研究に就いての中央統制機關であり、またロシア各地に散在する諸研究所の指導機關としてである。更に内寄生蟲學、殊に重點をおく寄生蟲學講座が十四の高等獸醫學校に設けられた。かくて研究に對する準備はなり、従來得られなかつた資格ある獸醫寄生蟲學者の訓練は確かなものにされた。進行上の主義として氏は完全なる寄生蟲學的剖檢を要求する。これは氏の業績の基礎をなすもので且氏は多年主張して獸醫寄生蟲學教授上の唯一の正當なる

方法となすものである。十一年間に約五萬頭の剖検を此の方法にて行ひ、誠に正しく此の國に於ける寄生蟲ファウナの本性を確立し、また更に重要な感染地域に就いて或る指示を與ふことが出来たのである。千九百二十九年の終り迄に政府は七十五の探検隊を國中の隅から隅まで派遣し、且五十の内寄生蟲に關する醫學的、獸醫學的、動物學的研究所を設立したのである。是等研究所或は探検隊によつて集められた更に價値ある標本は、モスコの中央博物館に保存せられてゐる。而して此のコレクションには現に二百餘の新種のタイプ・スペシメンがあるのである。

現在まで約二千の醫師が内寄生蟲學の訓練をうけた。モスコイにおける最近の第一回の内寄生蟲學者の集會には百六十八人の政府委員が出席してゐる。約三百餘の論文が醫學的及獸醫學的内寄生蟲について内寄生蟲學研究所から發表されてゐる。アメリカの寄生蟲學者にしてロシヤに如何なる祕密があるかを知らんと欲するならば、たとひ是等重要な論文が變化多い面倒な國語で述べられてゐても是を受けとるのを拒む氣になれないだらう。此の點に關しては、ワシントンの動物分科本部は十二ヶ國の國語を読み八ヶ國の國語を話すがロシヤ語を読むものが僅か三人、話すことの出来るものは一人だといふことを記すのも無駄ではあるまいと思ふ。

11. 一般統制方法 Skryabin は寄生蟲病を geohelminthases と biohelminthases の二つに分ける。前者は中間宿主なしに土壤、水等によつて感染が起るもの、後者は中間宿主を要するもので、該中間宿主動物を食ふことにより、またはダニやサシバへの如く該中間宿主に攻撃されることによつて感染の起るものをいふのである。しかして後者はその中間宿主を撲滅することによつて宿主と寄生蟲との連鎖をたち切る可能性があるから、コントロールは前者より容易であるといつてゐる。寄生蟲コントロールの機關としては内寄生蟲學研究所、屠畜検肉所、地方團體、牧畜業者及農夫の團體を利用し、是等が一定のプログラムに従つて共同作業をなすことを求める。このプログラムは専門的、定期的、合理的、義務的、決定的なものであるべきである。特殊方法としては野犬處分、各種の中間宿主たる軟體動物及鼠、虱の驅除、濕地の灌漑等を辯じてゐる。

三、國際的プログラム 氏は此等の事項を國際的プログラムとして實行せんことを求める。それは多くの國家は國際的脅威にある是等寄生蟲を無視してゐるからといふのである。氏のプログラムの簡單に記すと次の如くである。國際協定、協同計畫の適用、公約的な干涉、かゝる撲滅運動は寄生蟲を驅除するのみならず寄生蟲に因する他の疾病への素因を除き、健康な家畜を保存する經濟的利益をもたらすものである。又下等動物を源泉とする多數の人類寄生蟲を切り離し得る。是等の經濟的、醫學的恩恵は重大なる社會問題——即ち健康なる人類の出生と

發展——の解決に資するところがあると氏は結論する。

討 論

アメリカとロシアとの獸醫寄生蟲學の進歩に關する最も正確な比較は困難である。それは著者がロシアの事情について直接の觀察を缺いておるばかりでなく、公表されたものは比較材料について缺くところがあるからである。併しながら已に得たるものよりして次のことがいひ得られると思ふ。

アメリカ合衆國における寄生蟲學の成長は遅々としてその歩みをつけたものであった。Cuttee, Shiles, Hassall, Ward, Linton, Verrill, Pratt, の現はるゝに先つては、有名な寄生蟲學者としては Joseph Deidy 唯一人であつた。前記の其後繼者達中でも最初にあげた三人のみが獸醫寄生蟲學に興味を持つたに過ぎなかつた。其他 Dalmple, Francis 等、獸醫師は家畜の寄生蟲について時折仕事をしたものであつた。しかるに約十五年以前から潮流は一變し獸醫寄生蟲學に對する興味は甚しく高められた。この興味は現になほ増加しつゝあり、また少くとも次の十年間は増加を續けてゆくものと思はれる。即ち現在狀態は我々を新問題に當面せしめたのを實感するものである。而して寄生蟲は寧ろ益々厄介な問題となりつゝあるのである。

ロシアに於ける寄生蟲學への興味は急激で、また壯觀なものである。世界大戰以前には *Ustin* 其他僅かの寄生蟲學者がゐたに過ぎなかつた。大戰後多數の學者が急激に飛躍し

て來たのである。是等の人達は其の論文から判する範圍において實に優秀な人達である。アメリカが四十五年の日子を要したと同じだけの組織を彼等は近々十年間になしとげたやうである。

兩國の現在の狀態を比較してみるとアメリカの仕事は其の組織と協調がより不確實であり、また熟練した研究者と組織的な研究所が少く、またロシアが協調と探検隊とによつて得られたところの統計的材料において、わがアメリカは缺くところがある。しかしながら他方、我々はいくつかのプログラムを已に實行にうつしてゐる。即ちダニ、疥癬、瘧疾の撲滅及豚衛生等である。ロシアが國家内に於ける寄生蟲のコントロールを計畫し且、國際的プランを協定せんとしつゝあるは前述の如くであるが、いまだ實行にうつれることを著者は知らないのである。

此等の比較からしてロシアは恐らく Dr. Skajabin の影響によりアメリカより寄生蟲學問題の評価においてより鋭いところがあるやうである。しかしアメリカとても此の評価の水準に來ることは遠からずと思ふ。ロシアは強大な中央政府によつて寄生蟲撲滅運動を進め得る地位にあるが、アメリカでは各州の勢力のためそこ迄行かぬ。従つてロシアのプログラムに均くなるまでには Federal agency の發展を續けるのみならず、各州が充分なる團體まで發展しなければならぬ。しかしこれだけでは足りない。此の兩者即ち Federal agency と State agency と

は可及的無駄な不必要な二重仕事をさせて出来る限り協調的になければならぬ。而して此の協調は形式的な規定によつてなし得べきものではなく、友愛の精神の持續と協調の價值と必要とをよく理解することによつてなし得らるゝものである。勿論これはアメリカ寄生蟲學者の從來の特性である。

協調に就いて特別なプランとして次の事項は考慮に價する。數年來動物分科はワシントン以外の専門家でない研究者達の爲め分類學上の中央機關として活動をしてゐる。ワシントン以外の分類學の研究者は大部分大學出身の學士及博士である。充分效果ある分類學的業績を得るには充分な圖書館とカタログと大コレクションと熟練した分類學者の團體とが必要である。ワシントン以外に此の條件を具へたところはなし。the Library of Congress, the Surgeon-Generals Library, the Library of the U. S. Department of Agriculture, 及其他ワシントンにある圖書館を何處にかもう一ヶ所につくるといふことは不可能なことである。

Dr. Hassall が四十年の日子を費し現に四人の職員を有してもなほ手不足な index catalog の編纂をもう一つ別箇に起すといふことは不可能である。U. S. National Museum のコレクションを重複して二ヶ所におくといふことは不可能である。是等の便宜を有する動物分科の専門家はワシントン以外では等の便宜を有しない人達が數ヶ月を費してなほ成功の見込なきも

のを僅か十五分間に鑑別することが出来るのである。若し分類學以外に興味を有する人ならば（これは農業専門學校、Experiment stations, 獸醫専門學校等に於て普通のことであるが）動物分科で種の鑑別をして貰へばそれだけ時間が省けて彼は直ちに彼の興味を有する問題に進んで行くことが出来る。かやうなことは寄生蟲の病理、治療、豫防の研究に際して屢々見うけるところであつて、是等の仕事はワシントンで殊に便宜があるとはいへない。

次にロシアはその材料を各研究所及探検隊によつて得たのであるが我合衆國の各州の研究者達は我國に如何なる寄生蟲が何處にゐるかといふことを知るために調査研究をしなければならぬと思ふ。この仕事は Federal meat inspection の仕事に統計的研究を設け且つ發展せしむることによつて補はれなければならない。又同時に疾病と寄生蟲とを其の源泉にまで追究してゆく組織を加味せねばならぬ。

ビュロー・オブ・アニマル・インダストリが寄生蟲を重要視するのは見當違ひでないことは明であり、またロシアはアメリカ以上にこれを重要視してゐるのである。我國の立場を大きく見れば、このロシアとの比較も不公平とは思はれない。やがて我國の寄生蟲學の進歩は必要な場合ロシアと同様な手段を講じ得るまでに至る時期が来るものと思ふ。

Skjabin の寄生蟲コントロールに於ける國際的活動の提案

には明かに二つの困難がある。第一に國際聯盟、國際裁判所、ブリアンの歐洲聯盟案等・國際主義の發達と同時により以上の強さに於て國家主義の發達が明かである。例へばファシスト及 Communist youth movement 等の運動の如きである。第二に寄生蟲のコントロールの方法に至つては一國內に於ても充分なコントロールをなすことは出来ない程不完全である。Orthodoxyは言及を避けてゐるが我々の有する方法は凡て言譯的なものである。寄生蟲の國際運動を起すには治療及豫防に百パーセントの効果ある方法が必要とするものであるが現在我等はこれを持たぬ。現在最も必要なことは基礎的研究の増加と研究結果を出來るだけ實行に移すといふことである。國際的活動は未だ遠き將來のものの如く思はれる。(おほり)

學 會

日本獸醫學會講演會

同會は六月廿七日午後二時より開かれ仁田博士の挨拶に次で次の講演があつた。

一、牛の傳染性肋膜炎の血清診斷法に就て……小野定志君
君は牛肺炎の診斷法たるプレヒシノーゲン反應、中村二村兩氏補體結合反應、ダーメン式補體結合反應、ダーメン式沈降凝集反應等を病牛感染處牛に試み、前二者を併用し或は後二者を併用すると云ふ如き方法に於ては一〇〇%の確實性がある。又中村二村兩氏の方法は病牛發見

上に最も鋭敏な診斷法であると報告した。

二、鶏コクシデウムの發育に關する顯微鏡寫眞供覽……能美季一君

三、鹽酸フェニールヒドラザンの溶血素產生に及ぼす影響……若松有次郎君

四、陸軍士官學校に發する疾患の研究……同君
君は一種の桿菌に依る脚のフレグモニー様疾患に就て報じた。

競馬資料

□函館競馬俱樂部春季競馬會

同會は七月十九、二〇、二一、二四、二五、二六日に互つて行はれ勝馬投票券總賣上高は單勝式一四八、〇五五圓複勝式四〇三、七二〇圓で、總入場人員は八、八五六人であつた。賞金は本賞五三、四九〇圓、附加賞一〇、四八六圓、その優勝競走一著馬は次の如くである。

競走種別	距離(米)	馬名	重量(斤)	騎手	速度
騎乗速歩優勝	四、八〇〇	ピンテン	七四・〇	鈴木定	九・五九三
新馬	優勝	一、八〇〇	アマツカゼ	五・	二・一〇二
新馬	優勝	二、〇〇〇	ミントン	五・四	二・二〇三
内國產新馬優勝	二、〇〇〇	フラミンゴ	六三	内藤	二・〇五二
抽籤内國產古馬優勝	二、四〇〇	キンギ	六三	内藤	二・〇五二
内國產古馬優勝	二、四〇〇	セカンド	六三	千葉勝	三・四九〇
障礙	優勝	二、八〇〇	トヨミ	六三	三・四九〇